

[別紙 2]

審 査 の 結 果 の 要 旨

氏名 中川 淳

本研究の目的は、グアテマラ中央・東部でのサシガメ対策のために高リスク地域を階層化するための基礎情報を提供することであった。そのためにサシガメ駆除活動の開始前に 4 県におけるサシガメ生息家屋率を市単位で調査し、その生息率の地理的な傾向の把握を行っている。その結果、下記の結果を得ている。

1. 撲滅対象の *Rhodnius prolixus* 種の分布は限られ、在来種の *Triatoma dimidiata* は広く分布していることが確認された。
2. WHO の屋内と屋外の定義をシャーガス病対策の観点から定義しなおしたことで屋外と屋内のサシガメ分布の違いを明確に解析することができた。これは駆除対策との効率とも関連する可能性がある重要な結果である。
3. 土壁という家屋構造がサシガメ生息のリスク因子となることは認識されていたがこれを根拠あるデータで示すことができた。特に土壁率が 20%を超えると infestation rate が高い村落がでてくる点は重要である。
4. 高度と家屋構造を同時に *T. dimidiata* の屋内生息率と関連づけて分析をすることで、複数の要因が同時に屋内生息家屋率にどう寄与しているのか評価ができた。

以上、本論文はグアテマラ中部、北部におけるシャーガス病媒介虫の地理的分布を明らかにし、今後のシャーガス病媒介虫対策の戦略策定等に寄与すると考えられ、学位の授与に値すると考えられる。